



Lead Isotope Analysis of Tricolored Glaze in Nara Period and
Green Glaze in Heian Period

齋藤 努

はじめに

① 資料

② 分析方法

③ 結果と考察

まとめ



新しく開発された「高周波加熱分離-鉛同位体比測定法」によって、奈良三彩、平安緑釉陶器の鉛釉を対象として鉛同位体比測定を行った。産地、年代を明確におさえることができる窯跡出土資料を中心とした。ただし奈良三彩などについては考察に十分な数の窯跡の資料を得るのが困難であるため、消費地の資料を含めた。その結果、ほとんど全てのデータがきわめて狭い領域に集中する値を示した。これは、山口県美東町の長登銅山跡、平原遺跡から出土した鉛製錬関係資料や銅鉱石の数値とよく一致しており、この地域から一括して原料が供給された可能性が高い。